

裏表紙

表紙

書名： 平成21年度企画展

縄文土器と動物装飾

出版年月： 2010(平成22).1

著者： 富士見市立水子貝塚資料館

本サイズ： A4サイズ(210×297mm)

ページ数： 29P

※当企画展の図録は水子貝塚資料館で販売（在庫の場合）

なか見！検索 コンテンツ：

- ・開催にあたって
- ・目次
- ・羽沢遺跡の獣面装飾付土器
- ・勝坂式土器と人面装飾の成立（一部抜粋）

開催にあたって

羽沢遺跡の獣面装飾付土器は、昭和59年(1984)に発掘されました。

約5,000年前の縄文時代中期に製作された土器で、口縁部に獣の顔と尻尾をイメージさせる装飾が施されていることから、「ムササビ土器」の愛称がつけられました。その精錬された優美な造形は他に類をみないものであり、平成10年(1998)には同時に出土した土器と一括して「埼玉県指定有形文化財」となりました。

発掘された当初は、独特の獣面が何を表現したものなのか分かりませんでした。四半世紀が経過した現在は類似資料も増加し、猪の装飾が基本となっていることなどが明らかとなってきています。

そこで、今年度の企画展は、縄文中期の獣面装飾、特に人、猪、蛇を表現した土器を展示し、その系譜をたどりながら、羽沢遺跡の獣面装飾が何を表現したものであり、どのような過程を経て成立したのかを探ってみたいと思います。

本企画展の開催にあたり、貴重な資料の出品にご快諾いただきました皆様、並びにご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

平成22年1月30日

富士見市立水子貝塚資料館

目 次

開催にあたって

目 次

例 言

1	羽沢遺跡の獣面装飾付土器	1
2	動物装飾の萌芽	3
3	勝坂式土器と人面装飾の成立	4
4	人面・動物装飾の発展	13
5	人面・動物装飾の終焉	27
6	再び、羽沢遺跡の獣面装飾付土器	29

参考文献

協力者・協力機関

例 言

- 1 本書は、平成22年1月30日から3月22日まで開催する平成21年度企画展「縄文土器と動物装飾」の展示図録である。
- 2 本企画展の企画・構成及び展示図録の編集・執筆は、水子貝塚資料館学芸員和田晋治が担当した。
- 3 本書に掲載した資料のうち、「参考」の記載のあるものは本企画展中、写真パネルで掲示したものである。
- 4 本書では、従来「顔面把手」「人面把手」と呼称されてきたものを近年の研究状況を踏まえ「人面装飾」に統一した。ただし、文化財指定等で名称が定められているものは、それを尊重した。また、同様の理由により「ミミズク把手」も「双環装飾」、「獣面把手」も「獣面装飾」に統一した。
- 5 掲載写真のうち所蔵者から提供されたものについては記載してある。記載のないものは、所蔵者の了承のもと和田が撮影したものである。
- 6 本書で用いる縄文時代中期の土器型式名称は下表による。年代については、近年の年代測定成果に基づいている。

年 代	埼玉・東京・神奈川	山梨・長野
5500 年前	五領ヶ台式	
	勝坂1式	貉沢式
		新道式
5000 年前	勝坂2式	藤内Ⅰ・Ⅱ式
	勝坂3式	井戸尻Ⅰ・Ⅱ式
		井戸尻Ⅲ式
	加曾利E1式	曾利Ⅰ式
	加曾利E2式	曾利Ⅱ式
4500 年前	加曾利E3式	曾利Ⅲ式
		曾利Ⅳ式
	加曾利E4式	曾利Ⅴ式

1 羽沢遺跡の獣面装飾付土器

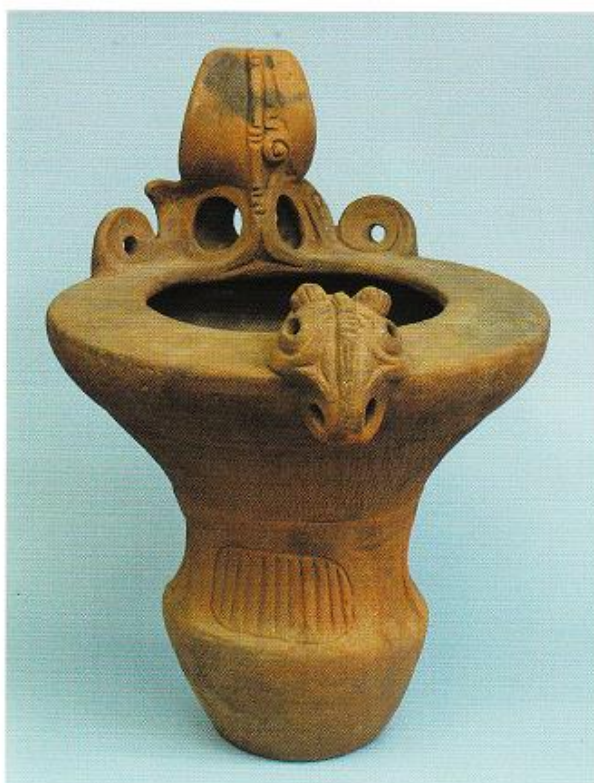
羽沢遺跡は、富士見市羽沢1丁目に所在する縄文時代中期の環状集落跡で、これまで100軒以上の竪穴住居跡が確認されています。獣面装飾付土器は、昭和59年（1984）9月に調査された第21地点第40号住居跡の覆土から横倒しの状態で出土しました。底部は残念ながら欠損しており、修復時に復元しています。

器形は、胴部がくびれ、そこから上部に向かい大きく開口し、口縁部は強く内側に折り返されています。これは、勝坂式終末期のみに認められる器形で、年代決定の指標ともなっています。胴部の文様帯は4段で構成され、上から無文、縄文、楕円区画文+渦巻文+楕円区画文、無文の順となっています。

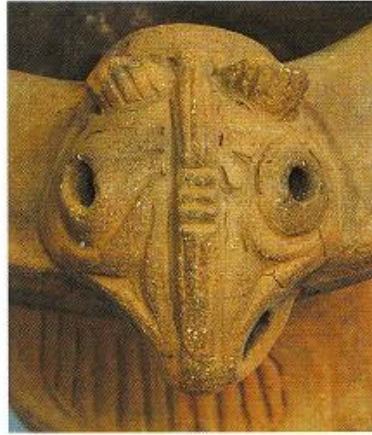
本土器の特徴である口縁部の立体装飾は、獣面を思わせる半球状のものと2つの大きな輪が結合した双環状ものからなっています。半球状装飾は、隆線によって左右に区画され、各々に耳のような小突起が付けられ、目のような丸い穴が開けられています。さらに、その下には鼻のような環状の装飾が付属しています。一方の双環装飾には、上に大きな板状の装飾が乗っています。これも隆線によって左右に分割され、向かって右側のみに渦巻文が入っています。



羽沢遺跡第40号住居跡の土器出土状態



- 1 獣面装飾付土器 埼玉県指定有形文化財 埼玉県富士見市羽沢（はねさわ）遺跡出土 当館蔵
勝坂3式 最高53.0cm 器高35.3cm 最大径37.8cm 口径22.5cm
動物装飾 高5.0cm 幅9.0cm 奥行11.0cm 双環装飾 高18.3cm 幅16.0cm 奥行8.0cm



3 勝坂式土器と人面装飾の成立..... 4

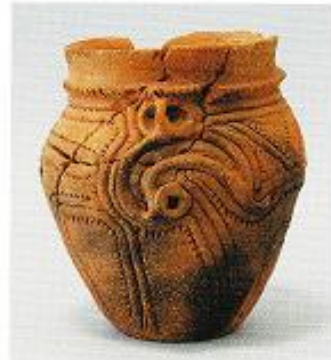
この項目内から、その一部の写真を抜粋



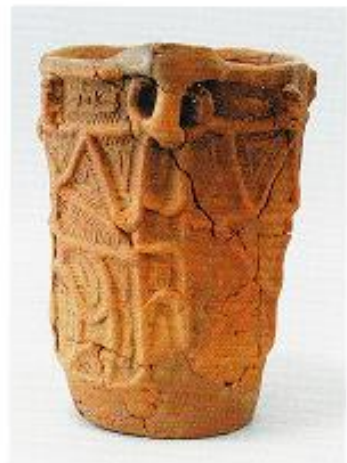
6 人体装飾付土器 東京都青梅市千ヶ瀬(ちがせ)遺跡出土 青梅市郷土博物館蔵
勝坂1式前半 器高21.0cm 口径16.0cm
隆線による2体の人体文様が向き合う。



7 人体文土器 国立市指定有形文化財 東京都国立市南養寺(なんようじ)遺跡出土 くにたち郷土文化館蔵
勝坂1式後半 器高17.0cm 最大径15.0cm 口径11.7cm
人体文様の反対は抽象文となっている。



8 人体文土器 国立市指定有形文化財 東京都国立市南養寺(なんようじ)遺跡出土 くにたち郷土文化館蔵
勝坂1式後半 器高22.7cm 口径16.0cm
頸部を欠損する。へそのような穴があるため一見正面のように見えるが、尻の割れ目表現から背中とわかる。



9 参考 土偶装飾付土器 長野県茅野市梨ノ木(なしのき)遺跡出土 茅野市尖石縄文考古館蔵
新道式 最高24.5cm 器高23.0cm 口径18.0cm
同様のもの、これより古い猪沢式期の土器が東京都町田市木曾中学校遺跡から出土している。

